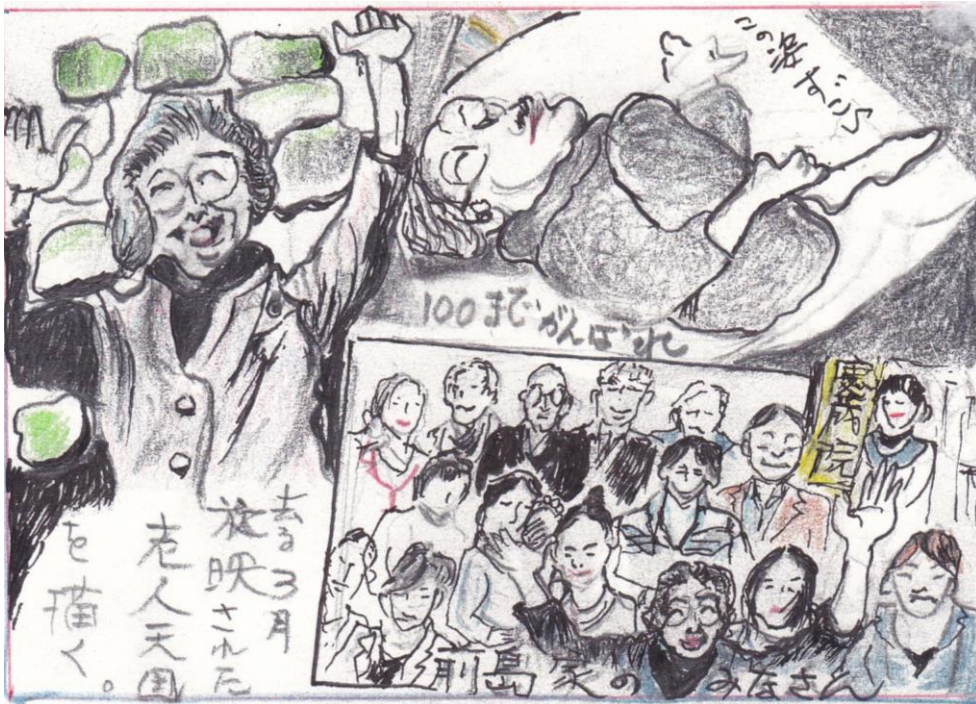


慶蔵院寺報

公孫樹

2021年4月発行
第111号
浄土宗慶蔵院
伊勢市小俣町元町1211
TEL 0596 (22) 3726



ZTV「年寄万歳」より 西里定一 画

西里さんの絵に寄せた

母親が取り上げられ「年寄万歳」、ケーブルテレビ番組に、沢山の方々から反響をいただきましてありがとうございます。二月十四日・十五日と二日間、密着取材を受けました。十五日、ちょうど先代住職の十七回忌法要と重なったのも何かのご縁と思われれます。度会高校で教鞭をとっていた先代住職の教えの方が番組を見られて「十七回忌と知って…」と訪ねて来て下さいました。皆様からいただいた激励の数々に母親は、ますます元気に体操をしなが、二ページの「豆知識」の原稿を書き続けています。

東日本大震災・福島原発事故より十年

三月十一日は、東日本大震災・福島原発事故より十年となりました。その年の四月から水曜日ごと続けてきた辻説法は、四五回を数えました。あつという間の十年だったと感じています。何ができたのか、何が変わったのか、まだまだの感があります。辻説法も続けることの意義を感じています。

朝の勤行の後、恒例になっている一人一言の中で、参加していただいていた方がこんな話をしてくれました。

「私は、家族四人で震災当時、仙台で暮らしていました。部屋がめっちゃめちゃになり地震の揺れも怖かったのですが、それ以上に怖かったのは原発事故による放射能でした。ほとんど情報が入らない中、ひとまず実家の九州に避難しようと、車で山形空港まで走りました。ところが空港は満杯で飛行機の子ケットが取れず、秋田空港に向かうことになりました。途中、道の駅で仮眠を取っていると見知らぬ人から声を掛けてもらいました。『避難されている方ですか、私はこの近くで料理旅館を営んでいる者ですが、少しばかりの食べ物を用意させてもらっています。どうぞよかったら部屋で身体も伸ばして休んでください』と案内されて、他の方々と一緒に、おにぎりをいただき、座布団を並べて横にならせてもらいました。この時いただいた親切が忘れられません…。」

4月の行事予定



7日(水)	写経 映画会	午前10時～ 午後7時半～
14日(水)	念仏会	午後7時半～
21日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後1時～ 健康教室・歩き方教室 参加費500円 午後7時半～
28日(水)	読経会	午後7時半～
25日(日)	戦没者慰霊	午前11時～
9日・23日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子ども茶道教室 午後7時半～大人の茶道教室 ※ 子ども無料 大人500円.
8日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1000円
予約があれば水曜日	キサンシンキングボウル ヒーリング	要望に応じて30分～60分

慶成院豆知識

⑧

昭和五十八年のことです。二歳を過ぎたばかりの孫の訓子が境内で遊んでいて、転がっていった毬を拾い上げその場を離れた瞬間、本堂の軒瓦が土埃を上げて落ちてきました。訓子は今もその時のことを覚えていて、赤い毬だったとか私が瓦が落ちてきたことを最初に伝えた…と語っています。

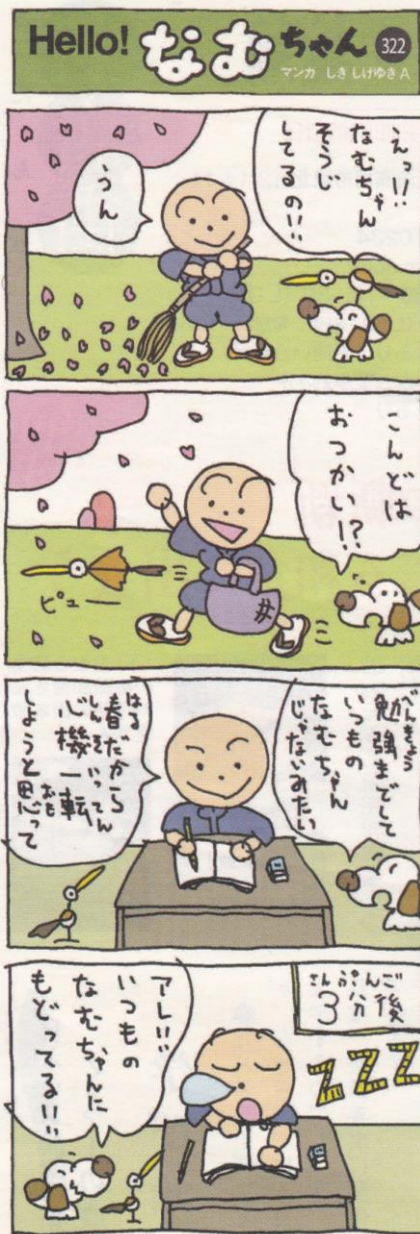
これは危険だ、一刻も猶予できないと、さっそくに寺世話人さんが寄りあって、本堂改修・建設実行委員会が立ち上げられ、浄財寄付をお願いする趣意書が作成され、手分けして昭和の大改修の訴えがはじまりました。

この工事を請負うことになった業者さん。監督さん以外の職人さんたちは、現在の釣鐘堂の場所にあった「あおい園」の旧園舎に寝泊まりをし、工事をすすめてくれました。ドラム缶で風呂も沸かし、洗濯も自分たちで行っていました。食事は倉野屋さんが毎回、届けてくれました。私たちは、毎日、お茶を冷やすための氷の塊を買いに行くことが日課となりました。

本堂には、あつという間に足場が組まれ、トタン板で囲い込まれ、屋根の上の足場に立って、古い瓦をすべて外し、傷んだ箇所を修理しながら、「どんな風が吹いても大丈夫」と光沢のある、重みをもった特注の瓦が、大屋根に葺かれて行きました。この時の修理で、本堂の正面の屋根の形が変更されることになりました。現在のふくらみを持った唐様に変えられたのです。この方が南風に強いとの理由であったと思います。それまでは、平たく前方に反りだした屋根だったのです。工事人さんたちは「次は姫路城の屋根を葺きに行く」と言っておられました。

(栄子)





昨年五月に閉所された「ともいきハウスおくやま」の未使用となっている「利用券」の扱いはどうなっているのか…との質問をいただきました。経過も含めてお答えさせていただきます。



四年間の活動期間でしたが「ともいきハウスおくやま」をご利用いただいた皆様、ありがとうございました。コロナ禍の中で家賃の五万円を支払い続けることは不可能と判断し、閉所を決めました。その際、昨年の「公孫樹」六月発行の101号の三ページに、「ともいきハウスおくやま」の閉所報告記事を掲載するとともに、その際、未使用の「利用券」について下記の通りお伝えさせていただきました。

「現在、お手元に利用券をお持ちの皆様をお願いします。恐れ入りますが、しばらく無くさないようにお願いします。コロナ収束の時期までには、連絡をさせていただきます。」…と。

このようにお伝えしたままで、具体的な提案ができずに約一年が経過してしまいました。

コロナの収束はまだ見えてこない状況にありますが、去年は中止になった「てらこや交流広場」を今年は5月16日に予定しています。開催できたならば、ここでの食券として一枚につき百円分の食券チケットとして使用できる扱いにさせていただきます。食券のメニューは、「てらこや交流広場」の開催要項の中で、改めてお伝えしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

浄土宗新聞より

花冷えに素敵な女ひとに会えるかも

（「知恩」誌四月号「柳壇」に掲載）

奥田 悦生

花まつり・子ども会は 4月18日から 5月16日に 変更させていただきます

10時～11時20分 **花まつりお楽しみ会**

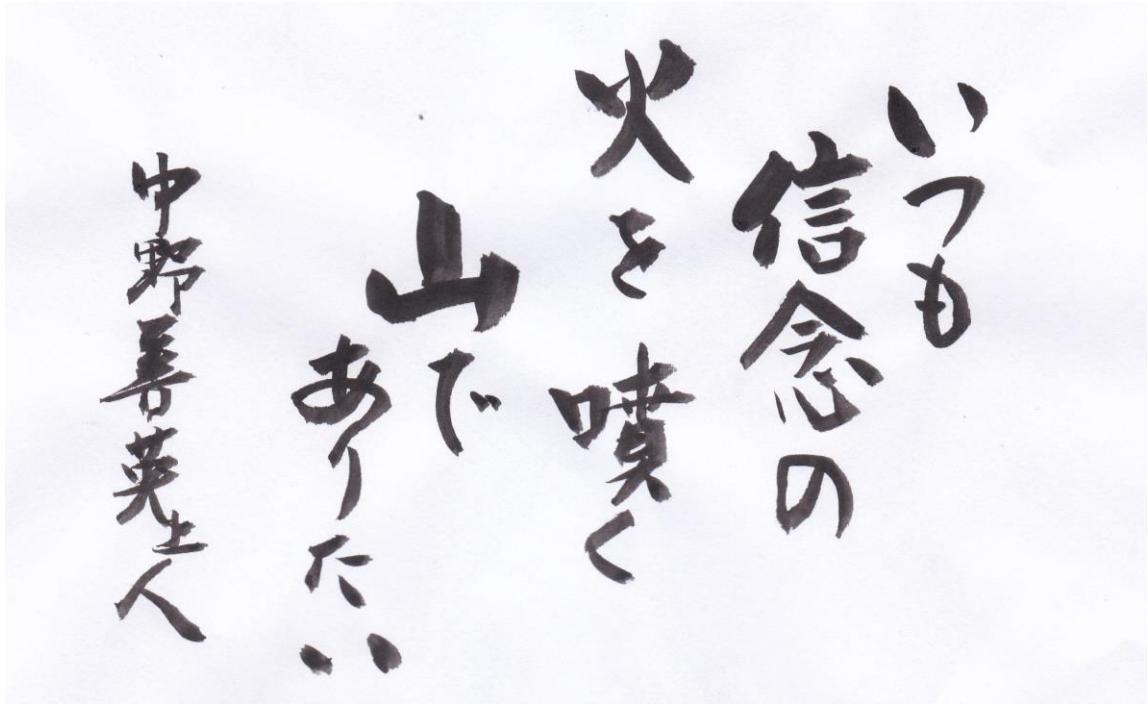
高橋薫先生グループ

11時半～ **花まつり法要**

※ お花のある方は持って来て下さい。

甘茶をお分けしますので入用の方は
ペットボトルをお持ちください。





「信念の火を噴く」とはどういうことだろうか。しかも「山でありたい」といい、「いつも」という。

信念は見えないが、その人の生き方・生き様として見えてくる。信念を貫くことは、その人の生き方を貫くことである。失敗しても、何度でもやり直すことのできる力は「火を噴く」ようだ。転んでも、転んでも立ち上がり、何かをつかむ生き方。そこに山が築かれる。信念は、いつも一人から出発する。

治安維持法違反、非国民といわれても戦争反対の信念を貫いて特攻に殺された多喜一。原発推進の町の中において反対の意思を表明し続ける僧侶。念仏を信じ、称え続けることに確信をもっている妙好人。

皆、信念の人たちだったといえる。

横井久美子は、国会議事堂前の路上で、毎週金曜日一人立って歌った。沖縄の辺野古でも歌った。信念を貫きとおして生きぬいた人である。

横井の歌「人生のはじまり」は、離婚した女性の生き様に感動して出来た歌である。しかし三番の歌詞だけをとりあげると「死別」の歌と受けとめてもいいと思えてくる。

「あなたと出会い いっしょにくらし そして別れが訪れたけど 今はわたしも 幸せなの ひとりで生きて行くわ」

そして

「このまま人生の幕はひけないと 風が私にささやいたのよ いつでも今が人生のはじまりと 風が涙をさらっていったわ」

何度でもやり直す人生。ここに火を噴く信念を見た。